

静岡県内政令指定都市の消費者物価指数の動き

令和7年平均総合指数（前年比）静岡市4年連続上昇、浜松市5年連続上昇

企画部 統計活用課

県内政令指定都市（静岡市及び浜松市）の消費者物価指数について、平成28年から令和7年までの年平均の推移、令和7年の10大費目別指数の前年比の動きを紹介します。

消費者物価指数とは、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格などを総合した物価の変動を時系列的に明らかにするものです。

1 静岡市消費者物価指数

静岡市の令和7年平均の消費者物価指数は、令和2（2020）年を100とした総合指数が111.4となり、前年と比べ3.3%の上昇で、4年連続の上昇となった。

天候要因などによる値動きの激しい生鮮食品を除いた生鮮食品を除く総合指数は110.8となり、前年と比べ3.3%の上昇で、こちらも4年連続の上昇となった。

生鮮食品と原油価格などの対外的な影響を大きく受けるエネルギーを除いた生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は109.8となり、前年と比べ3.2%の上昇となった。

(1) 年平均の推移

総合指数は、平成29年、平成30年に原油高を背景にガソリンや電気代などのエネルギー関連品目が上昇し、前年比プラスとなった。令和元年10月に消費税率が8%から10%となる改定が行われたが、飲食料品への軽減税率の適用などにより影響は軽微なものとなった。令和2年は、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済の減速懸念を背景とした原油安に伴い電気代やガソリンなどが下落した一方で、「巣ごもり需要」による生鮮野菜などの上昇、夏以降は「GoToトラベル事業」による宿泊料の下落がみられた。令和3年は、4月に大手通信各社の携帯電話の通信料が大幅に値下げされたことにより、年間を通じて下落となった。令和4年にはウクライナ情勢などによる原油価格の上昇や国際的な原材料価格の上昇、円安を背景に、エネルギーや生鮮食品を除く食料を中心に価格転嫁の動きが見られ、3年ぶりの上昇となった。以降も上昇傾向が続き、令和6年、令和7年には、全国的にうるち米の価格が高騰し、カカオ豆の国際的な価格上昇の影響を受けチョコレートの価格が上昇するなど、食料品を中心に価格上昇が相次いでいる。

図1 静岡市消費者物価指数の推移

(2020年=100)

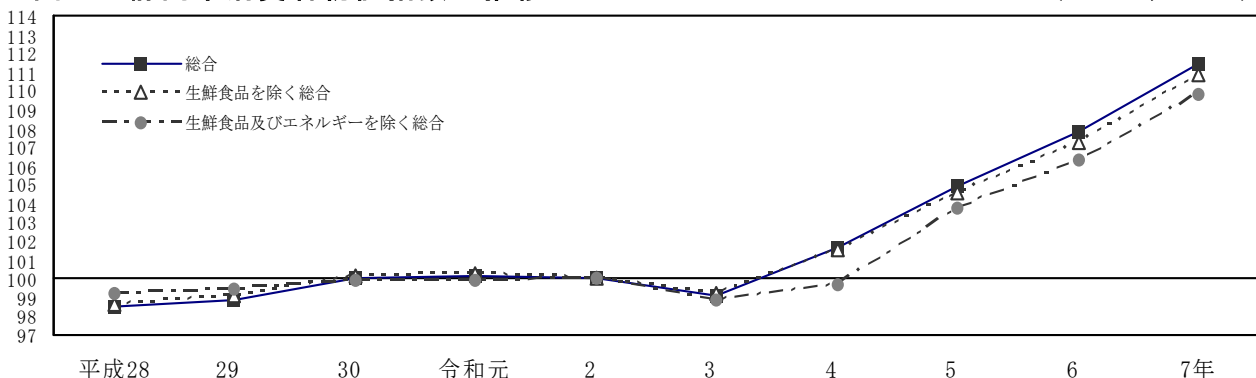


図2 静岡市消費者物価指数の前年比の推移

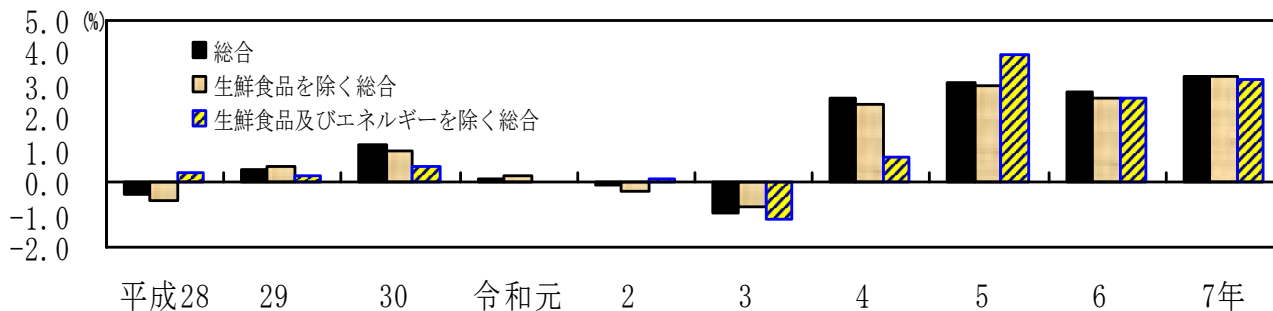


表1 静岡市消費者物価指数及び前年比 (2020年=100)

		平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
総合	指数	98.5	98.9	100.0	100.1	100.0	99.1	101.7	104.9	107.8	111.4
	前年比(%)	-0.4	0.4	1.2	0.1	-0.1	-0.9	2.6	3.1	2.8	3.3
生鮮食品を除く総合	指数	98.6	99.1	100.1	100.3	100.0	99.2	101.5	104.6	107.3	110.8
	前年比(%)	-0.6	0.5	1.0	0.2	-0.3	-0.8	2.4	3.0	2.6	3.3
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	指数	99.2	99.4	99.9	99.9	100.0	98.9	99.7	103.7	106.3	109.8
	前年比(%)	0.3	0.2	0.5	0.0	0.1	-1.1	0.8	3.9	2.6	3.2

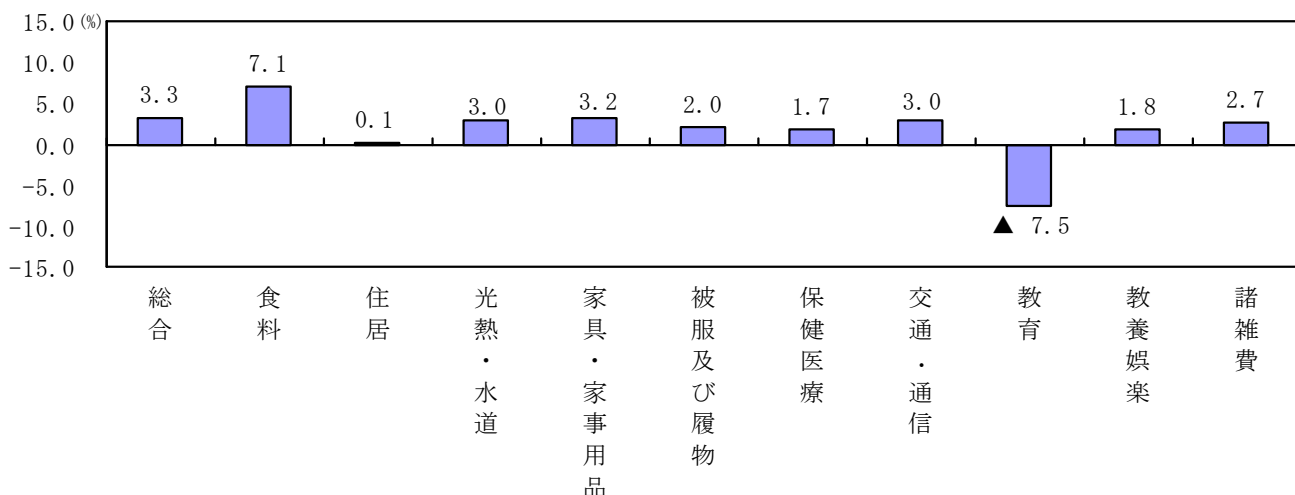
(2) 10大費目別指数の前年比

令和7年平均の10大費目別指数の前年比を見ると、教育を除く全ての費目でプラスとなった。米類を含む穀類や調理食品、菓子類などの食料が前年比7.1%の上昇となり、自動車等関係費や通信などの交通・通信が前年比3.0%の上昇となった。一方、公立高等学校の授業料が無償化されたことなどに伴い、教育が前年比7.5%の下落となった。

表2 静岡市消費者物価指数の令和7年10大費目別指数、前年比及び寄与度 (2020年=100)

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指数	111.4	124.3	100.5	117.6	121.7	109.9	105.3	99.9	97.2	114.1	107.6
前年比(%)	3.3	7.1	0.1	3.0	3.2	2.0	1.7	3.0	-7.5	1.8	2.7
寄与度	-	2.15	0.02	0.23	0.14	0.07	0.09	0.40	-0.17	0.17	0.16

図3 静岡市消費者物価指数の10大費目別指数の前年比



2 浜松市消費者物価指数

浜松市の令和7年平均の消費者物価指数は、総合指数が113.1となり、前年と比べ3.1%の上昇で、5年連続の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は112.5となり、前年と比べ3.0%の上昇で、こちらも5年連続の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は111.3で、前年と比べ3.0%の上昇となった。

(1) 年平均の推移

総合指数は、静岡市と同様、平成29年、平成30年にエネルギー関連品目の上昇に伴い前年比プラスとなった。令和元年は消費税率の改定が行われたが、幼児教育・保育の無償化などにより上昇幅は縮小した。令和2年は新型コロナウイルス感染症による影響などにより、令和3年は携帯電話の通信料の値下げや住居費の上昇により横ばいで推移していたが、令和4年は円安や原油価格の高騰などにより、大きく上昇した。以降も食料品を中心に上昇傾向が続いている。

図4 浜松市消費者物価指数の推移

(2020年=100)

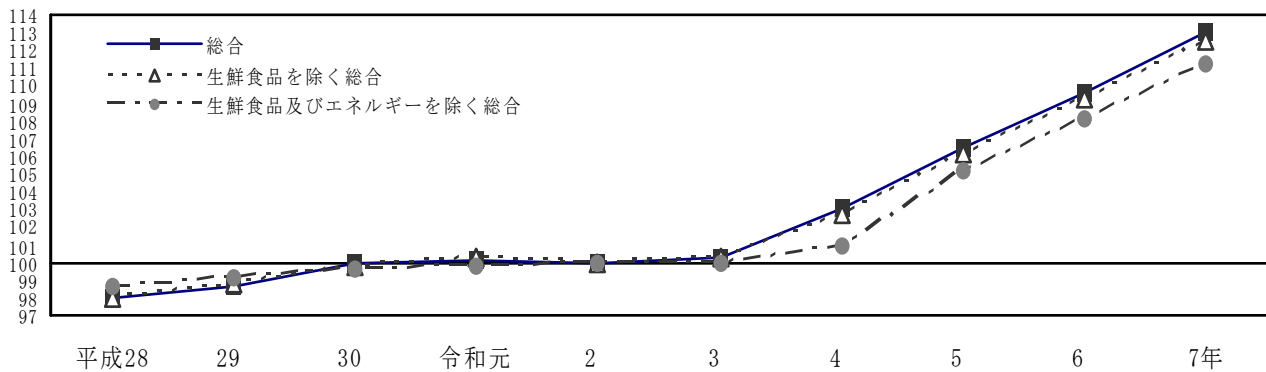


図5 浜松市消費者物価指数の前年比の推移

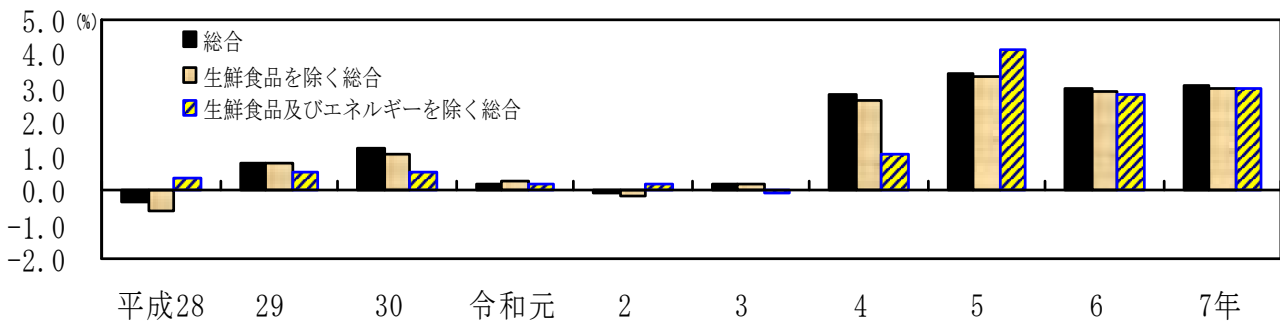


表3 浜松市消費者物価指数及び前年比

(2020年=100)

		平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
総合	指数	97.9	98.7	99.9	100.1	100.0	100.2	103.0	106.5	109.6	113.1
	前年比(%)	-0.3	0.8	1.2	0.2	-0.1	0.2	2.8	3.4	3.0	3.1
生鮮食品を除く総合	指数	97.9	98.8	99.8	100.2	100.0	100.2	102.8	106.2	109.2	112.5
	前年比(%)	-0.6	0.8	1.1	0.3	-0.2	0.2	2.6	3.3	2.9	3.0
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	指数	98.6	99.1	99.6	99.8	100.0	99.9	101.0	105.1	108.1	111.3
	前年比(%)	0.4	0.5	0.5	0.2	0.2	-0.1	1.1	4.1	2.8	3.0

(2) 10大費目別指数の前年比

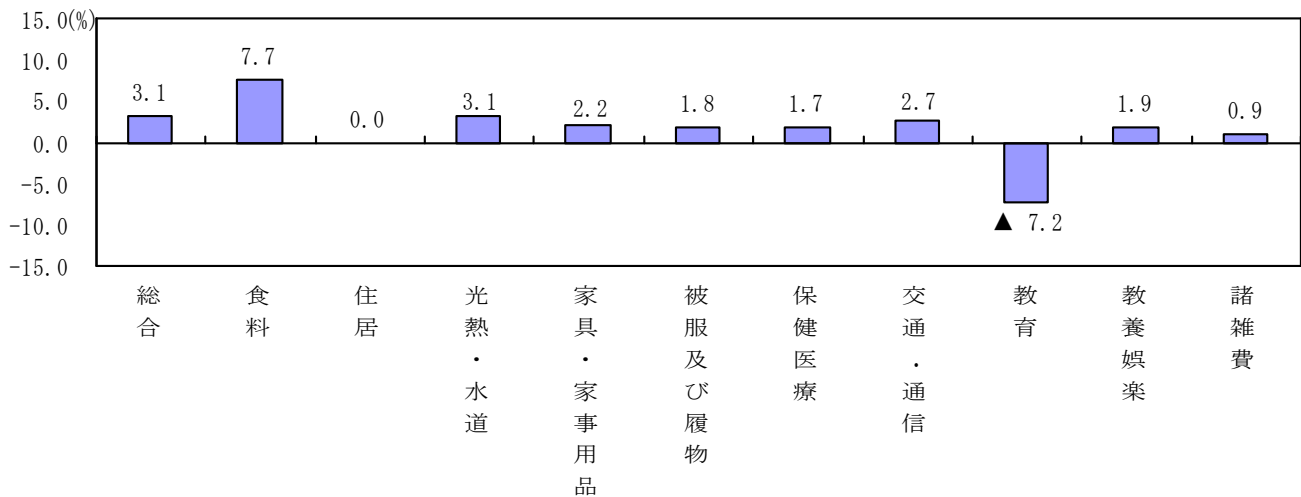
令和7年平均の10大費目別指数の前年比をみると、米類を含む穀類や調理食品、菓子類などの食料が前年比7.7%の上昇となり、電気代やガス代などの光熱・水道が前年比3.1%の上昇となった。

一方、静岡市と同様の傾向として、公立高等学校の授業料が無償化されたことなどに伴い、教育が前年比7.2%の下落となった。

表4 浜松市消費者物価指数の令和7年10大費目別指数、前年比及び寄与度 (2020年=100)

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指数	113.1	125.7	107.2	117.9	125.2	112.4	105.5	102.4	91.0	115.9	103.9
前年比(%)	3.1	7.7	0.0	3.1	2.2	1.8	1.7	2.7	-7.2	1.9	0.9
寄与度	-	2.15	0.01	0.22	0.10	0.06	0.08	0.40	-0.14	0.18	0.06

図6 浜松市消費者物価指数の10大費目別指数の前年比



3 静岡市、浜松市、全国の生鮮食品を除く総合の消費者物価指数（前年比）（参考）

天候要因などによる値動きの激しい生鮮食品を除いた生鮮食品を除く総合指数は、消費者物価の基調をみるためのものであるが、令和7年は前年比で、静岡市が3.3%の上昇、浜松市が3.0%の上昇となった。全国は3.1%の上昇であった。

図7 静岡市、浜松市、全国の生鮮食品を除く総合（前年比）の推移（参考）

(2020年=100)

